

ボール

大瀬良先生の熱い研究心が伝わりとても面白かったです。審判までされている先生がしんどい子(技能の低い子)がどうボール運動を味わうことができるかとても工夫された授業だったと思います。空間を作り出すという動きは、今授業で取り組んでいるフラフトでも重要な学習内容になっていると感じています。攻守入り乱れのゴール型のスポーツにおいて空間を作り出す動きを学ぶことが2年生の段階でも一定できるということに驚きました。今日はありがとうございました。

実践や交流での話を聞いて勉強になりました。勉強したことを生かしていきたいです。

時間の少なさがやはりもったいなく思いました。ただ、大瀬良実践次々に見つけられる物になっているのではないかと思います次々に見つけられる物になっているのではないかと思います。

今回は報告の機会をいただきありがとうございました。これまでの例会等とは違う雰囲気があって、緊張しましたが、楽しめました。低学年のじゃまじゃまサッカーにこだわって取り組みましたが、様々な角度から論議いただき、もう一度昨年度の実践を振り返って、まとめることができたらと思います。それを生かして、今年度中学年で実践できたらと思います。ありがとうございました。

10年くらい前にじゃまじゃまサッカーを実践したことがありますが、3対2でボール3つまでは盛り上がったのですが、ボールを1つにした途端、攻めあぐねてしまう状態が多くなってしまい、私自身もその後どうすればいいのかを悩んだ経験があります。今回の大瀬良さんの実践をお聞きして、コート縦の長さ(じゃまゾーンを短く)を工夫すれば良かったんだと今更ながら気づくことができました。一方、パスが出てくると、学びが膨大になってしまってくるので、それこそ教師が学ぶ内容を精査して子どもにおろす必要性も感じました。ありがとうございました。

大瀬良先生、ありがとうございました。今日の話し合いでも話題になっていましたが、ボールを扱うことが難しい児童に対してどのような支援をしていけばよいかとても悩むところです。実際私も実践をしたときに、苦手な児童に対してのどのようにしたらいいのかわからずに困ったことがたくさんありました。今日も遊びを取り入れた教材を使って練習をすることを提案してくれていました。これからはそのような教材をたくさん知れたらいいと思いました。

マルチボールはとてもよかったと思います。じゃまゾーンの幅も狭めることでねらいにせまれるのではと思いました。苦手な子へのアプローチとして、そもそもじゃまじゃまサッカーがどうやったら苦手な子がサッカーを要素の練習、トレーニング的なもので味わうのではなく、ゲーム性のある中で楽しみながら上達することができるかを考えて作られた教材だと思います。ただ、それでも立ち止まってしまう子はいます。今回の報告やその後の討議をへて、自分も改めて苦手な子へのアプローチを考えました。大瀬良さんがされていたように、じゃまじゃまをする前に遊び的にボール操作をされていたが、あれを大事にせなあかんと思いました。また、佐々木さんが言うように、サッカーでも1対0の練習がいるなど。大瀬良さんもコートにコーンだけ置いてやらしていましたがあの時は子どもたちも積極的にできていたと思います。やはり、「できるかも」と思えたら子どもは止まらずチャレンジするのではと思い、ゲームになってもそう思わせる工夫が必要

だなど感じました。ありがとうございました。

幼年

幼年の民舞は運動会のためであっても、遊びと捉えて取り組み始めるのがいいと思います。そういう意味で言えば、遊びの定義として「模倣」の要素も含まれていることがいいと思います。だから、荒馬（アイヌの踊り）がイメージしやすく模倣ごっこから入っていけるからいいんだろーと思います。85年の大阪の全国大会でダンプ園長に教えてもらった時には馬もなく手綱だけでした。ですから「こんにちはさようなら」はその当時はUターンという名称で教えてもらいました。ですので、その時は「こんにちはさようなら」という言葉かけもなかったんです。その後ダンプも荒馬の実践を積み、あちこちの現場に伝えていく中で子どもたちの姿に合わせて変化していったのだと思います。ですから、現地の踊りから始まった物ではあるけど、各現場でこの踊りを通して、子どもにどんな力を付けて欲しいのかが大事で、その年年の子どもたちの姿に合わせて学ぶ中身も変わっていったって大丈夫なんじゃないでしょうか。例えば今年の子どもたちは左右をこだわった動きをさせてみたいとか。言葉かけは厳選していこうとか。あつていいんじゃないでしょうか。そんな風に思います。

高田先生の入門提案、鈴木先生の実践提案を聞いて、先生たちの子どもたちへの愛情が伝わってきました。子どもたちに対してできる、できないではなく、子どもたちの姿を考察して、真摯に保育して、保育を積み上げている。お話が聞けてよかったです。明日からの保育に生かしていきたいと思います。また、民舞で何を大切にしたいかなど、実践を通して、交流できればよいなと思いました。入門提案、実践提案ありがとうございました😊😊😊

荒馬の伝統文化的な動きを大事にするのか、発達段階としてのわかりやすさから「子どもに響きやすいことば」として「こんにちは、さようなら」という声かけの指導法を取るのか、なかなか興味深い論議でした。前田先生が故ダンプ園長の指導を紹介し、昔からの永遠のテーマなんだろうなと感じたり、でも、目の前にいる子どもたちの素直な実態から今回は鈴木先生が「こうしたい！」と強い意志が感じられる実践報告でした。

鈴木さんの実践から、子どもたちの変わってきた様子や集団としての変化も聞くことができ、教材としての民舞の良さや、伝える大人が踊りを好きである事の大切さを再認識しました。また幼年として幼児期の民舞という点はみんなで議論しながら深めていきたいなと思います。

大瀬良さんのねらいがはっきりとした実践で勉強になりました。アウトナンバーでの駆け引き屋」作戦に加えて、子どもたちに1対0から1対1の動きをくぐらせることで、その後の作戦やかけひきにも幅が出てくるのかな？と思いました。

私自身、荒馬実践を三回していますが、いまだに手応えを感じられていません。鈴木先生の実践を聞いてこんな風にしてればよかったのかなと学ばせてもらいました。目の前の子ども達がどこに楽しさを感じるか、大人の思いばかりにならず子どもを理解することを大切にしたいと思いました。

高田さんの入門提案では、なぜ荒馬をするのかを丁寧に整理されていてよく分かりました。日本人固有な身体技法の一つである「踏み」を荒馬指導で、押さえられたことは重要だなと思います。また、荒馬を踊る心地よ

さを脳内生理学の見解を紹介されていたことについては、ダンプ園長の著作からも、この点を論及されていました。律動的な縦揺れは、快感になるようです。鈴木さんの実践は、朝輝さんが感想に述べられていたように、荒馬を踊る前に、自由に散歩したり遊んだりすることが凄くいいなあと思いました。太鼓になっている時に、園庭で自由に走ったり、跳んだり、歩いたりすることが、踊りに繋がるのではないかと思います。現地の今別荒馬では、町中を練り歩き、ポイントポイントごと立ち止まって踊るので、散歩はそのイメージと重なりました。あと、箕面の保育園と荒馬の交流をされたということですが、実践者によって子どもたちの表現が違っていたと思います。その違いはどうだったのかお聞きしたかったです。どうもありがとうございました。

まずは、高田さんの安定の入門提案。これまでの長い実践に裏打ちされた提案はとても聞き応えがありました。中でも、朝輝さんの質問に答えた中身で、ダンスと民舞の違いについては、大変興味深く聞かせてもらいました。続いての鈴木さんの実践報告は、聞いていてとても羨ましかったです。子どもたちが馬と心を通い合うところまで仲良くなっていく姿に、感動すら覚えました。それだけ丁寧に時間をかけて、みんなで取り組まれていたからだと思いますが、そんな環境を鈴木さん自身が作ってこられたのでしょうか。そして、その結果があつたSちゃんをはじめ、子どもたちみんなの成長に繋がっていったのだと思います。小学校現場では、そのような環境を作るのはなかなか難しいのですが、聞かせてもらっていると、やはりチャレンジしたくなりますね。高田さん鈴木さん、幼年のみなさん、ありがとうございました！

いろいろな民舞の中で私自身が「荒馬は楽しい」と思えたのはなぜだろうか、子どもたちに受け入れられる荒馬の力ってなんだろうか、ということに対して、高田さんがより科学的な知見に迫りながら荒馬の独自性や楽しさを深めてくださったと思います。鈴木さんの実践報告には、鈴木さんが自身の経験から感じたことを大切に実践に結び付けられていて、また実践する中で難しいなと思うところ（ペアのところや対面になってできているかどうか...など）を丁寧に語られていたことが素晴らしかったですし、その姿勢を学ばせていただきました。学生時代の経験もとても大切なのだと鈴木さんのお話を聴きながら改めて感じました。今日はありがとうございました

高田先生 鈴木先生お話ししていただきありがとうございます。荒馬でお散歩に行ったり、荒馬を生活の一部に取り入れる環境設定が素敵だなと思いました。子どもたちもすごく自信に溢れていて、僕も荒馬を実践してみたくなりました

全国大会から引き続き、なぜ民舞なのか、民舞で何を教えるのか等について、考える時間になりました。リズムダンスではない、民舞を教える意味とは何か。やはり、生産労働で行われていた動き・体の使い方、道具の操作等の動きは、効率よく、無駄のない動きになっているのだと思います。それを教えることが民舞を教える意味の一つではないかと考えます。そして、素朴でシンプルな動きなので、子どもから大人まで誰でも踊ることができるところが、魅力の一つだと思っています。さらには、踊る楽しさや自己を表現することの喜び、心の開放、人との繋がり等をも教えることができる。生のお囃子で踊る場合は、太鼓や笛の音色に合わせ、踊り手と演奏者とが響き合いながら踊ることができるのも魅力の一つだと思いました。鈴木さんの実践提案は、子どもの姿から、丁寧に保育が行われており、子どもたちが荒馬を通して、どんどん繋がっていく様子がうかがえました。荒馬でクラスみんなが繋がっていく姿が印象的でした。

幼児期の子どもたちにとっての民舞とは何か深く討議され、とても学びになりました。鈴木先生の実践でSちゃんの個々の育ち、取組後に互いを認め合い、達成感を共有できる集団の育ちから、子どもの姿から楽しい活動をつくり荒馬に取り組んでいくことで、子どもたちの大きな成長に繋がると感じました。かけ声、左右、型

など子どもたちによって何が適しているのかなど違ってくると思うので、今後も学ぶ中で考えていきたいです。

細かく丁寧な実践提案をしていただき、ありがとうございました。低学年の担任をするのが初めてで、ボール遊びについてイメージがあまり湧いていなかったのも、とても参考になりました。ボール遊びに入るまでにまだ時間があるので、0時間目を生かしてクラスの実態を把握し、授業づくりをしていけたらと思います。

新しいことうへお知ることができました。ぜひ、実践してみたい。

主張が控えめだった子ども達が運動会の荒馬の後、今日の荒馬めっちゃよかったなと話していたというエピソードが印象的でした。荒馬を含め子どもとの対話を大切に実践されてきたからなのだろうなと感じました。色々な意見がある中で鈴木先生が悩みながらもこだわりを持って実践されたことの価値が子ども達の言葉から見えたように思いました。また実践の中で左右の指導(?)や声を出す出さないなどの議論から子どもがどう感じているか・子どもにとってどうなのかという視点の重要さを改めて感じました。北河内ブロックの方々、大変な中学ぶ機会をつくっていただきありがとうございました。

健康教育

健康教育の分科会初めて参加させてもらいました。午前中の上野山先生の講演から 午後の実践の様子を聞くことができ 実際の子どもの素直な意見に驚かされました。また、素直な気持ちを言えたり、書けたりするのは、クラスや先生との安心できる関係なのだなとも思いました。正しい知識を得て、正しく怖がる、そして周りの人に自分の気持ちを受け止めてもらえると、少しは不安が和らいだのではないかなと思いました。ありがとうございました。

健康教育の実践をしていく上で、体育科との関係性を整理することが必要不可欠だと感じています。先日、日本体育学会に参加し、その会でも「体育と保健をどう融合させるのか?」が話題になっていました。体育を「体づくり」や「スポーツ教育」として捉え、保健を「健康な体づくり」として捉えられている場合、それらは「体づくり」として結びつくこととなります。そして、同志会には「3とも」の理念がありますが、その中でも「ともに意味を問い直す(自由・平等・平和)」が、体育と健康教育を結びつけるのではないかと感じました。「切実な問題」を通して、「社会を観る目」を育てることが、同志会がこれまでずっと大事にしてきたことなのだと思います。

笹田さんの実践報告、子どもたちのまっすぐな生の声が心にささりますね。低学年の子どもたちだって、コロナのことをよく知ってるし、それについて語りたい。そして、自分事としてしっかり考える事ができるし、むしろ大人よりもっと素直に向き合う事が出来るのではないかと思います。私も2年生なので、子どもの声をたくさん聴いてみたいなと思いました。笹田さんは、子どもからの疑問に合わせての資料作りがとにかくすごい!! 子どもが知りたいことと、伝えたいことを融合させた、みんなで考えたい授業だと思いました。

入門提案 とても分かりやすくまとめられていて、これまでとこれからの健康教育の目指すべき方向性がわかりました。子どもたちが社会の一員として、どう生きていくのか・・・考えさせられました。実践報告 子どもたちの声を丁寧に紡ぎだしながら、しっかりと事実を見つめていく実践を聞いて、改めて健康教育実践の凄

みを感じました。特に、世界の国々との比較は、子どもたちに、今の日本の対策や政治・経済に目を向けるきっかけになったのだと思います。まさに、日名さんの提案にあった「社会参加」につながるものですね。健康教育は、いつ聞いても「新しい」「挑戦」を感じます。教材づくりがいつも目の前の子どもの声、生活課題から出発しているからですね。「なぜ自分たちはこんな不自由な生活を強いられているのか」から「コロナ禍の当たり前、例年通り、他校や他地域との横並び」に違和感を感じ、自分たちの手で自分たちの生活・環境・社会をつくっていこうする「主体」を形成していくと思いました。

子どもたちは、今の状況（コロナウイルス）にアンテナを張っているため、大人が大変さだけではない、正しい状況を教えていかなければいけないと感じました。又、今の状況は、大変さが前面に出がちですが、明るい未来も子どもたちも伝えなければなと思えました。

はじめて健康教育分科会に参加しました。提案者が中河内 B の見慣れた方ばかりで自分自身も安心して報告できました。今、旬なコロナの実践だからこそ多くの先生方が関心を持っていると思います。実際に私自身もこれまで実践された先生方の教材や資料を大いに参考にさせてもらい実践することができました。また、感想交流では、各現場の子どもたちの様子なども聞くことができ大変有意義な時間でした。またいろいろな方が実践された新型コロナの授業の報告を聞かればと思います。

今日はありがとうございました。健康教育は、落としどころや「何を教えればよいのか」ということが分からなかったり、「対話」も全体の見通しや学習計画を立てることが出来ず、ずっと避けてきたところです。上野山さんの午前中のお話を聞いて、生活課題の中から学びを考えるとおっしゃられたことが、少し腑に落ちました。

日名さんの入門がまずわかりやすく、スライドがとても効果的でした。保健学習の学習指導要領的な意味合いを整理しながら、学習指導要領前文の文言「豊かな人生を切り拓き、接続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる」を逆手に取り同僚を納得させ実践の実現に繋げる、という一休さんの頓知的アイデアは明日からすぐ真似させてもらおうと思いました。田中さんがチャットで感想「同志会の健康教育は『社会科』に近い」と書かれてましたが、それは当然で、「健康」という切り口から社会を見つめることのできる主権者教育もそこに含まれていると思ってます。笹田さん、窪田さんの報告も頂くことばかりでした。ありがとうございました。

歴史を知れば未来が見えるという言葉は、今わたしが歴史を子どもたちに教えている時にいつも大切にしていること（過去を知ることで今が見えてくる）とほぼ等しく、健康教育では、現代の課題から過去に戻り、未来を見据えるということなんだなとわかりました。田中さんが同志会の健康教育は社会に近いといっていました。学習で大切に作る軸となるものが、また磨かれたようで嬉しいです。窪田さんの教材への向き合い方にはいつも本当に本当に本当に尊敬でございます。気前よくデータくれるところも神。最強。優勝。もう文体も乱れますよ！！健康教育は、自分自身が学びが多く、そのことでものの見方が変わっていき、自己肯定感が上がります。学ぶことの意味がダイレクトに伝わる素敵な教育ですね。こういう実践ができる余白があるうちにみんなに広めていけたらいいな。